

香川高等専門学校 平成25年度 年度計画・実績報告

S: 年度計画を十分に履行している
 A: 年度計画をほぼ履行している
 B: 年度計画を十分に履行していない
 C: 年度計画を履行していない

平成25年度 年度計画	平成25年度 実績報告	自己評価	
香川高等専門学校(以下「香川高専」という。)の中期計画に基づき、平成25年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。		/	
I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置		
1 教育に関する事項	1 教育に関する事項		
(1) 入学者の確保	(1) 入学者の確保		
①(a)各中学校が実施する高校説明会に参加するとともに、後援会と連携して入学案内等の配布先拡大による広報活動を進める。 (b)教員・在校生による出身中学校訪問を実施し、香川高専をPRする。 (c)地域との連携を深め、小学生あるいは保護者や一般市民を対象にしたイベントに参加して、香川高専をPRする。 (d)学習塾を訪問して、塾講師に香川高専の魅力を伝えるための学生募集説明を実施する。 (e)入試の情報発信に、香川高専HP、ICTオープンキャンパス、公共施設展示スペースを活用する。	①(a)69中学校の高校説明会に参加し、学校説明を行った。 ①(b)教員8名が出身中学校を訪問し、学校説明を行い、在校生64名が出身中学校を訪問し、近況報告と学校説明を行った。 ①(c)高松春の食と文化のフェスタに参加協力して香川高専科学体験フェスタを実施し、PRした。仁尾八朔人形祭りに参加し、作品展示等を行い、PRした。みとよ商工まつりに参加し、「おもしろ科学体験」コーナーに出展した。二宮ふるさとまつり、金蔵寺こどもまつり、法の郷いきいきまつり、ふれあいまつり城乾、など各種イベントに参加し、香川高専をPRした。 ①(d)11学習塾を訪問し、塾講師に学校説明、学生募集説明を行い、関係資料を配布した。 ①(e)入試の情報発信に、香川高専HP、ICTオープンキャンパス、公共施設展示スペースを活用した。特に、香川県立図書館の展示スペース(掲示板)には、学生募集ポスターを常設掲示した。	A	A
		S	
		S	
		A	
②(a)入学説明会、学校説明会、体験入学、オープンキャンパスを複数回開催し、その際に、他高専の取組成果事例も参考にPR活動を行う。 (b)24年度作製の「高専女子百科Jr(香川高専版)」冊子と女子卒業生の進路調査結果をPR活動に活かし、女子中学生対象の講演会やHPの女子中学生向け頁を充実させる。	②(a)高松キャンパス、詫間キャンパス、徳島、岡山、倉敷の会場で入学者募集説明会を実施した。また、香川、徳島、愛媛、岡山県内の8地区で地区別学校説明会を開催した。体験入学とオープンキャンパスは、2会場のべ4回実施した。 ②(b)高専女子百科Jr(香川高専版)冊子を、入学者募集説明会、体験入学、オープンキャンパス、中学校訪問で配布しPR活動を行った。女子学生キャリア支援のHPを充実させた。また、高専女子フォーラムin四国を運営し、女子中学生と保護者を対象に入学相談コーナーを設けた。	A	A
		S	
③(a)入学案内を作成し、中学生やその保護者に配布するとともに、ICTオープンキャンパスを利用した広報活動及び中学生向け香川高専Webコンテンツを充実させる。 (b)小中学生向け公開講座や地域連携に係る各種イベント等を利用して積極的な広報活動を行う。 (c)高専機構の作成した広報資料を有効に活用する。	③(a)「学校案内2014」を作成し、オープンキャンパスや地区別学校説明会等で中学生やその保護者に配布した。「入学案内」を作成し、中学生やその保護者に配布するとともに、ICTオープンキャンパスを利用した広報活動及び中学生向け香川高専Webコンテンツを充実させた。 ③(b)女子学生組織である「たかまつ土木女子の会」主催で小学生対象の公開講座を開催した。小学生対象の見学バスツアーを実施した。 ③(c)「キラキラ高専ガール」を入学者募集説明会、体験入学、オープンキャンパス、中学校訪問で配布した。高専広報映像「21世紀のエンジニアを目指す、進化する高専」を地区別学校説明会等で放映した。	A	A
		A	A
		S	
④(a)入学者の出身中学校別に成績分布図を作成し、入学後の追跡調査を実施、現在の推薦基準と選抜方法による効果を検討する。 (b)入学説明会・地区別説明会の状況と受験生の利便性を分析し、現在の学外試験会場を維持するか否かについて検討する。	④(a)入学者の出身中学校別に成績分布図を作成して、入学後の成績について追跡調査を実施し、現在の推薦基準や選抜方法に不都合のないことを確認した。 ④(b)入学説明会・地区別説明会の実施状況、参加状況と地域別の出願者数、合格者数の分布から、現在の高松・詫間・倉敷の3試験会場を維持することが妥当との結論を得た。	A	A
		A	

平成25年度 年度計画	平成25年度 実績報告	自己評価	
<p>⑤(a)入学説明会、学校説明会、体験入学、オープンキャンパス等の改善や各種催し物の実施方法や内容について、アップデートなものに刷新を図る。</p> <p>(b)岡山・愛媛・徳島地区での広報活動を重視し、入学者が目立って減少した地域の中学校を訪問して情報収集に努め、広報戦略の改善を図る。</p>	⑤(a)両キャンパスのオープンキャンパスで女子学生コーナーを設け、最新の情報提供を行った。	A	A
	⑤(b)岡山・愛媛・徳島地区の中学校を訪問し、学校説明や募集説明を行った時に、中学校教員と面談し、情報を収集した。	A	
<p>(2)教育課程の編成等</p> <p>①(a)本科は、高度化再編の統合設置計画における第四年次履行期間であり、完成年次に向けて教員配置、設備の更新、教育基盤整備計画を着実に履行する。</p> <p>(b)専攻科は、長期インターンシップの実績の積み上げを図り、ネイティブ教員による英語授業を引き続き実施する。</p> <p>(c)各学科においてモデルカリキュラムと本校のカリキュラムの比較対照を行い、整合性と見直し検討の結果についての報告を全学で精査する。</p>	<p>(2)教育課程の編成等</p> <p>①(a)設置計画履行状況報告において留意すべき事項が付されることがなく、専任教員補充・科目編制・設備整備が年次進行している。</p> <p>①(b)専攻科でネイティブ教員による英語授業を実施した。</p> <p>①(c)各学科においてモデルコアカリキュラムと現在のカリキュラムの到達目標・内容に関して比較対照を行った。</p>	A	A
<p>② 地域や学生のニーズに応じた新学科、新分野、コース制及び学科再編の検討を継続的に行い、将来計画タスクフォースが提案した2専攻2学科構想について、志願者確保と進路提供の展望予測に取り組み。</p>	② 将来計画タスクフォースによる志願者確保策と進路提供の展望が集約され、各キャンパスでの報告会を通して全学意識統一ないし構想実現に向けた検討を進めた。	A	
<p>③(a)低学年における基幹的な科目(数学・物理・英語)の教育課程について継続的に到達度を把握し、「数学」「物理」については、「学習到達度試験」過去問を授業に反映させる取組など、試験結果を重視した学力向上及び教育内容の改善措置を講じていく。</p> <p>(b)「英語」については、技術者として必要とされる英語力の涵養のため、1、2年生へはTOEIC Bridgeを、3年生以上にはTOEIC IPを受験させる。TOEICテストなどの結果を分析し、それをもとに教育内容の改善に努める。</p> <p>(c)さらに、専攻科学力入試(英語)においては、TOEIC得点による免除制度を両専攻で導入する。</p> <p>(d)「化学」について、四国共通試験を四国高専拠点校として実施し、学生のモチベーションや基礎学力を維持する試験として活用する。</p>	③(a)(a)数学・物理・英語などの低学年における基幹的な科目の学力の到達度を把握するよう努力している。数学・物理に関しては、過去問を授業に反映させ、プリント等を利用して、学力向上に努めた。	A	A
	③(b)「英語」については、年に4回程度、希望者にはTOEIC IPを実施している。さらに、1・2年生にTOEIC Bridgeを、3年生以上にTOEIC IPを実施した。この結果を分析し、教育内容を改善するようにしており、聴解力をさらに育成するため、25年度は授業でリスニングの機会を増やした。	A	
	③(c)専攻科学力入試(英語)において、TOEIC得点による免除制度を両専攻で導入した。	S	
	③(d)「化学」について、基礎学力や知識の向上を確認するために、四国共通試験を四国高専拠点校として実施し、学生のモチベーションを維持している。	A	
<p>④(a)質問項目が全学統一の授業アンケートシステムを在学生に実施し、教育活動の改善・充実に資するためにカリキュラムや授業の評価結果について、全教員にフィードバックする。</p> <p>(b)専攻科修了後1年を経過した者に対するアンケートやOB参集イベントを活用し、教育課程の評価を実施する。</p>	④(a)質問項目が全学統一の授業評価アンケートを在学生に実施した。その評価結果をもとに各教員が教育の改善・充実に努めた。	S	A
	④(b)プログラム改善のための会合を開催し、修了生の代表も招いて、教育課程の点検・評価や改善報告を行った。	A	
<p>⑤(a)両キャンパス協働のスケールメリットを活かしつつ、参加チームのモチベーションを相互に刺激する方策を推進し、学生の帰属意識を高めて香川高専のPRに繋がる全国的な競技会やコンテストに学生を積極的に派遣する。</p> <p>(b)全国高専体育大会へ参加する学生の遠征を支援するとともに、帯同教職員は参加選手をサポートする。全国高専ロボットコンテスト、全国高専プログラミングコンテスト、全国高専英語プレゼンテーションコンテスト及び全国高専デザインコンペティションへの学生の参加を積極的に支援する。</p> <p>(c)学生の創造性を育み、知的財産教育を推進するため、学内発明コンテストを開催し、学生がパテントコンテストへ応募をする際には支援をする。</p>	⑤(a)全国大会での活躍を報告し、優秀な成績の場合には校舎に垂れ幕を掲げるほか、推薦基準に基づく校長表彰などを行った。遠征費用の支援も行っている。	A	A
	⑤(b)全国高専体育大会において、高松キャンパスでは男子バレーボール部が二連覇の偉業を達成した。また、バドミントン団体においても二年連続3位という好成績をあげた。さらに陸上競技においては800m走で1位、2位の快挙を成し遂げた。全国高専体育大会参加学生への支援として、交通費全額・宿泊費の4分の1を負担した。	A	
	⑤(c)学内発明コンテスト(応募数50件)では5件を推薦し、パテントコンテストへ応募した。全国から応募のあった377件(高専部門105件)から本校の2件を含む27件(高専部門8件)が特許支援対象として表彰された。発明者である学生は、今後弁理士の指導も受けながら特許出願と権利化に取り組む予定である。	S	

平成25年度 年度計画	平成25年度 実績報告	自己評価	
<p>⑥(a)周知された他高専の取組状況などを参考に、現在実施している社会奉仕活動や自然体験活動に、より多くの学生が参加できる体制の整備について引き続き検討し、参加意欲の向上のため、社会貢献に資する活動は積極的に全学に向けて紹介する。</p> <p>(b)春の新生合宿研修のプログラムを見直し、両キャンパス内の交流がより深まるものを中心に実施し、夏季以降は学生生活のために、より効果が上がる研修を計画する。</p>	<p>⑥(a)高松キャンパス環境整備作業としてキャンパス周辺の清掃活動を実施した。多くの教職員、学生が参加することによって、周辺環境の美化および地域に貢献することができた。</p> <p>⑥(b)新生合宿研修では、講師による一斉指導型のプログラムからキャンパス内の交流をより重視したスポーツ活動(クラスマッチ形式)により、一層交流が深まった。また、秋の運動部リーダーシップセミナーにおいては、両キャンパス合同での研修活動、ソフトバレー交流大会等により有意義な交流が図られた。</p>	A	A
<p>(3)優れた教員の確保</p> <p>① 多様な背景を持つ教員の割合が60%を下回らないように、関係団体等を通じて教員の募集活動を行い、高度な実務能力を持つ人材の発掘に努める。</p>	<p>(3)優れた教員の確保</p> <p>① 教員公募時において、独立行政法人科学技術振興機構の研究者人材データベースを利用すると共に、各種学会等にも教員公募を行っている。</p>	A	
<p>②(a)長岡、豊橋の両技科大との人事交流制度を継続して活用するために、相互の連携をはかり、候補者の選考を行う。</p> <p>(b)四国地区高専間の教員人事交流を積極的に推進するため、ブロック校長会議で運用を協議し、引き続き交流を行う。特定分野における実務適任者として企業から推薦された人材に任期を付し、受け入れを継続する。</p>	<p>②(a)高専・両技科大間教員交流制度を利用し、各学科に候補者の推薦依頼を行った。</p> <p>②(b)四国地区高専間の教員人事交流について、四国地区国立高専校長・事務部長会議において運用を協議し、新居浜高専との相互人事交流1組が決定した。企業技術者(教授)の受け入れについては、6月に出向期間延長後ないし次年度満了後も引き続き実務を担当してもらう。</p>	A	A
<p>③ 専門科目については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者を、一般科目については、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者を、それぞれ採用時の条件とする。</p>	<p>③ 教員の公募条件において専門科目については、博士の学位を持つ者を必須とし、専門分野においては技術士の資格を有する者を追記し公募している。また、一般科目については、修士以上の資格を有する者を条件として公募を行い、採用した。</p>	A	
<p>④(a)女性教員の積極的な登用のため、教員公募の際は、女性限定・女性優先採用を明記する。</p> <p>(b)24年11月設置の学内「男女共同参画推進会議」を定例化し、女性教員にとって働きやすい職場環境の整備を推進するための方策を検討する。</p> <p>(c)教職員に対するハラスメントの講習会を実施する。</p>	<p>④(a)教員公募において、男女共同参画に基づき、女性を優先して採用する旨を明記し教員公募を行った。</p> <p>④(b)平成25年度においては、「男女共同参画推進会議」を定例化して開催している。また、女性教職員にとって働きやすい職場環境の整備を推進するため、女性教職員を対象とした懇談会において意見聴取を行い、当該推進会議において、その方策を検討し、施設整備の要望をとりまとめた。</p> <p>④(c)7月に実施したFD・SD研修会において、全教職員を対象に、ハラスメントの講演会を実施した。</p>	A	A
<p>⑤(a)高専機構の開催する各種研修会等へ適任者・参加希望者を積極的に派遣し、研修報告の学内周知を推進する。</p> <p>(b)全教職員が参加するFD・SD研修会を開催する。</p> <p>(c)四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)が提供する各種研修等を積極的に活用する。</p>	<p>⑤(a)高専機構開催の教員研修(新任教員、クラス経営、管理職)のそれぞれに教員を派遣し、研修報告が管理職に周知された。</p> <p>⑤(b)全教職員が参加するFD・SD研修会を開催した。</p> <p>⑤(c)四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)が提供する各種研修に、次世代の高専を担う意気込みのある若手職員を選抜して、受講者派遣を行った。</p>	A	A
<p>⑥ 香川高専の名を高める顕著な功績が認められた教員や教員グループを校長が表彰し、国立高専教員顕彰に推薦する。</p>	<p>⑥ 国立高等専門学校機構教員顕彰実施要項に基づき候補者を選考し、一般部門と若手部門に候補者を推薦した。</p>	A	
<p>⑦ 高度化推進のスケールメリットを活かして校長裁量経費を重点事項に優先配分し、教員の国内外の大学等での研究・研修及び国際会議参加に対する旅費等の支援を行う。</p>	<p>⑦ 中期計画達成のためのフルコスト配分から、専任教員配置のない国際交流室をセグメント化したことで、体制支援が明確になった。</p>	A	
<p>(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム</p> <p>①(a)高専改革推進プロジェクトには積極的に参画し、教育の質の向上に資する教材や教育方法の開発を支援する。</p> <p>(b)e-Learning教材の開発とそれを活用した授業を推進する。</p>	<p>(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム</p> <p>①(a)一部の演習授業において、卒業研究・特別研究で開発したレポート管理システムを活用している。</p> <p>①(b)情報基盤センターがe-Learning教材の開発とそれを活用した授業を実施している。</p>	A	A

平成25年度 年度計画	平成25年度 実績報告	自己評価	
②(a)JABEE審査結果を有効に活用し、JABEE2012基準への対応に向けて教育プログラムの整備を行う。 (b)資格試験等の受験を推進し、資格取得状況を把握するとともに、受験者を支援するために学中の取得資格を学修単位として認定する。	②(a)専攻科電子情報工学コースのJABEE2012基準への対応として、学習・教育達成目標を改訂し、「履修コースに関する規程」、「同実施細則」を整備した。	A	A
	②(b)学生用掲示板に受験案内ポスターを適宜掲示、TOEIC、無線従事者国家試験等を本校で実施するなど、学生の便宜を図った。資格取得が単位認定の対象となる資格の一覧を学生便覧に掲載し、学生の申請に基づき教務委員会で審議の上単位を認定した。単位認定の対象とする資格に「知的財産管理技能検定3級」を加えた。	S	
③(a)中国四国地区高専専攻科生研究交流会に積極的に参画し、他高専との交流を推進するとともに、平成25年度同交流会を開催する。 (b)交流活動取組情報を入手し、学生を大学や他機関提供の研修プログラムに参加させる。	③(a)中国四国地区高専専攻科生研究交流会に参加し、他高専との交流を推進した。	A	A
	③(b)学生会執行部の学生が、四国地区高専学生会交流会(高松)および全国高専学生会交流会(大阪)に参加した。	A	
④(a)教育実践例報告会を全学レベルで開催し、各学科の優れた取り組みを共有する。 (b)全国高専教育フォーラムで教育方法の改善の取り組みを発表する。	④(a)教育実践事例報告会を開催し、学生の意欲を増進させる教育実践にかかる事例・工夫などFDに寄与する取り組みが発表され両キャンパスでの成功事例を共有した。	S	S
	④(b)教育研究分野「教育方法」のカテゴリーで、改善取組の実例を発表した。また、活動発表会では司会進行を本校教員が担当するとともに、当該分野においてのべ8名が審査員として参画した。	S	
⑤ 機関別認証評価の受審査への準備を進める。	⑤ 機関別認証評価の受審査に向けて、「認証評価に関する自己評価担当者等に対する研修会」に副校長1名が参加した。業績集としての年報も継続して刊行した。	A	A
⑥(a)香川高専独自の「スケジュールダイアリー」を配付し、就活指導の一貫としてインターンシップ参加のためのシステムの充実や、企業人による出前授業を企画して学生への啓発活動、しごとプラザとのタイアップ企画、その他企業への働きかけに取り組む。 (b)インターンシップ受け入れ企業と連携して研修内容の比較調査を行い、研修モデルや蓄積した研修ノウハウを提供することにより、研修の充実を図る。	⑥(a)スケジュールダイアリーを製作し、4年次の始めに学生に配布し、活用方法について指導した。企業の人事担当者による就職指導講座、しごとプラザ高松やコンサルティング会社を活用しての講座や研修を企画した。	A	A
	⑥(b)調査を継続し、経験が乏しい企業には、研修事例を提示した。	A	
⑦(a)「企業技術者等活用プログラム」事業を積極的に活用するとともに、産業技術振興会の支援によって、プログラムを補強して実施する。 (b)現役企業技術者等を活用して学生や地域のための講習会を開催する。	⑦(a)「企業技術者活用プログラム」事業を計画どおり実施した。また、事業予算がない前期については、香川高専産業技術振興会の支援を得て、早期事業実施が可能となった。	S	S
	⑦(b)香川高専人財バンクを新設し、OB人財による学生への講義その他支援体制構築を行った。	S	
⑧ 長岡技術科学大学と連携して、実践的・戦略的技術者育成プログラム(技術者育成アドバンスコース)を実施する。	⑧ 長岡技術科学大学と連携して、実践的・戦略的技術者育成プログラム(技術者育成アドバンスコース)実施のため多様な教員組織編制を行い、グローバルかつ複眼的な講義を可能とした。	S	S
⑨(a)「創造性豊かな実践的技術者養成コース」を利用した授業、WebClassを利用した演習を実施する。 (b)教員にe-Learningサーバの活用講習会等を行って、積極的な活用を促す。	⑨(a)「創造性豊かな実践的技術者養成コース」を利用した授業、WebClassを利用した演習を実施した。	A	A
	⑨(b)教員を対象に、e-Learningサーバの活用講習会等を実施した。	A	
(5)学生支援・生活支援等	(5)学生支援・生活支援等		
①(a)教職員対象に「メンタルヘルス」に関する講習会、学生対象に「薬物乱用防止」「喫煙防止」「自殺防止」に向けた講習会、体育部学生と顧問教員対象に「AED講習会」を実施する。 (b)二輪車の交通安全教室や携帯電話・ネット安全教室を開催する。	①(a)ゲートキーパー養成講座、自殺予防に関する講演、薬物乱用・喫煙防止に関する講演、メンタルヘルスに関する講演、性的マイノリティに関する講演、AED講習会を実施した。教職員対象の「学生の自殺予防」に関する講演会も実施した。	S	S
	①(b)交通安全に関する特別講演、ネットリテラシーに関する講演、犯罪・事故防止に関する講話、二輪車安全運転講習会を実施した。	S	
②(a)寄宿舎管理棟及び第2棟についての改修整備計画で該当する年次相当の部分改修工事を行う。 (b)女性教員宿直室の整備をはじめとする女子寮の充実を図る。	②(a)「詫間キャンパス学生寄宿舎整備計画」により将来的な整備計画を立案実施中である。	A	A
	②(b)高松キャンパスでは、女性教員宿直室改修の平面計画を実施した。	A	

平成25年度 年度計画	平成25年度 実績報告	自己評価	
③ 高専機構や産業界から収集した各種奨学金に関する情報は、HPや香川高専だより、電子掲示や教室掲示を通して学生に迅速に周知する。	③ 入手した情報を様々な媒体により速やかに周知している。	A	A
④(a)キャリアサポートセンターによる企業情報、進路情報などの提供体制や相談体制を充実させた学内の取組状況を総括する。特に「スケジュールダイアリー」の利用状況とその効果について調査する。 (b)専攻科・大学編入の推薦基準の指針となるGPAの浸透度と活用状況を追跡する。	④(a)独自に作成した「スケジュールダイアリー」を企業研究や合同企業説明会で活用した。 ④(b)平成25年度の4年生対象に初めてGPAをもとに専攻科と大学へ推薦基準を適用した。	A S	
(6)教育環境の整備・活用	(6)教育環境の整備・活用	S	
① 施設・設備の計画更新にあたっては、施設・設備の老朽化状況を現地把握し、各部署ヒアリングを経て環境・施設マネジメント委員会で検討する。	① 各部署より提出された修繕要望を元に、施設課で整理した順位づけを環境マネジメント委員会の了承を得て、順次整備を行っている。共同利用スペースについては、教育研究を目的として利用希望を募り、利用計画等を記載した利用申請書の提出により、施設マネジメント委員会の議を経て校長が利用許可を行い、施設の有効利用を図っている。		
②(a)産業構造の変化や技術の進展に対応できる実験・実習や教育用の設備の導入年次に基づき、施設の耐震化・校内の環境安全・実習設備環境基盤整備の計画を環境・施設マネジメント委員会が策定する。 (b)高度化再編整備計画に基づく改修部分の稼働状況と環境整備の取組効果を環境・施設マネジメント委員会が検証し、キャンパスマスタープランに反映する。	②(a)実験・実習や教育用設備導入に伴い、電気室トランス容量の増設更新を両キャンパスで実施した。詫間キャンパスでは、武道場耐震改修及び寄宿舎2棟1階内部改修を実施、管理棟玄関前ロータリーの環境整備を実施した。高松キャンパスでは、管理部及び一般教育棟3階教員室改修を実施した。 ②(b)高度化再編整備計画に基づき、詫間キャンパスの老朽化した講義棟等の広範囲に渡る改修を実施し、今後のキャンパスマスタープランの整理を進めた。	A A	A
③ 学生及び教職員を対象に、常時携帯用の「実験実習安全必携」を配付するとともに、安全管理のための学内責任者向け講習を実施するとともに、各種講習会へ受講者を派遣する。	③ 学生及び教職員を対象に、常時携帯用の「実験実習安全必携」を配付している。安全管理のための学内責任者向け講習を実施するため、各種講習会へ担当者派遣している。	B	
2 研究に関する事項	2 研究に関する事項	A	
①(a)高専機構新技術説明会、全国高専テクノフォーラム、イノベーションジャパン等において研究成果を積極的に発信するとともに、人的交流を図る。首都圏開催イベント出展には、四国地区の拠点校として地域イノベーションセンター主導で取り組み、参加教員の知財シーズと企業ニーズのマッチングを図る。 (b)科学研究費補助金等外部資金獲得のためのガイダンスを実施し、応募可能な研究費プログラムや技術移転事業の紹介を的確に周知して積極的な申請を促進する。	①(a)四国地区高専地域イノベーションセンターの事務局として、全国高等専門学校テクノフォーラムやイノベーションジャパンに出展した。さらに、フォトニクス、テクノフロンティア、インケムにも四国内他高専とともに出展し、企業等とのマッチングに努めた。また、四国内高専の知的財産シート集を作成して、広報を行った。 ①(b)科研費補助事業説明会およびA-STEP説明会を開催し、申請を促進した。また、国補研究事業の公募状況を適宜広報することによって、外部資金の獲得を促した。		
②(a)地域イノベーションセンター報2013の発行や教職員による企業見学会を実施するとともに、企業からの技術相談を高専教員シーズに繋いで、共同研究プロジェクトへの展開を推進する。 (b)四国地区高専教員や近隣大学と連携した合同シーズ発表会を開催する。	②(a)地域イノベーションセンター報を計画どおりに発行して、広報した。 ②(b)四国地区の3高専との連携して、香川高専のシーズ発表会を開催した。	A A	A
③(a)本校拠点のブロック高専地域イノベーションセンター主導で「知的財産紹介シート集」を発行し、首都圏の展示会を重視してシーズを紹介することにより、企業の県内事業所や関連業界との人的ネットワークを構築して、研究成果実用化のための取組を検討する。 (b)学内で知財講演会を開催して知的財産の権利化や技術移転について啓発活動を継続して知財意識を浸透させるとともに、システム本稼働の際は、権利化案件のハンドリングに活用する。 (c)学内発明コンテストを実施して、学生の知財取得を奨励するとともに、特許コンテストへの応募を促す。	③(a)四国地区高専地域イノベーションセンターを主導して「知的財産紹介シート集」を発行して、展示会等の出展時に配布して広報した。 ③(b)教職員向け学内知的財産講演会を開催して、知的財産権を啓蒙した。また、四国地区高専地域イノベーションセンターを主導して弁理士会四国支部との連携を進め、弁理士による相談会を試験的に実施した。 ③(c)学内発明コンテストを実施するとともに、全国特許コンテストに応募した。その結果、特許と実用新案の出願を果たした。	A A S	

平成25年度 年度計画	平成25年度 実績報告	自己評価	
3 社会との連携, 国際交流等に関する事項	3 社会との連携, 国際交流等に関する事項		
①(a)地域イノベーションセンターが四国地区高専の社会連携活動における中心的役割を担っていくために、全学委員会がその方策を講じる。	①(a)四国地区高専地域イノベーションセンター運営会議を開催し、四国地区高専の連携を進めた。	A	A
(b)企業との連携のため、セミナー・研究会・企業見学会等を定期的に開催する。	①(b)企業との連携のための講習会やイブニングセミナー、研究会を数回開催した。また、教職員による企業見学会を実施した。	S	
(c)地域連携推進施設の機器整備や機器開放に取り組む。	①(c)地域イノベーションセンター内に各種研究設備を新設した。さらに翌年度実施予定の機器解放のための取組みを進めた。	A	
②(a)教員教育活動データベースを整備するとともに、教員シーズ集を電子媒体(CD)化し、マッチングにむけた広報活動に利用する。	②(a)教員技術シーズを随時整備更新して、広報に用いた。	A	A
(b)地域人材開発本部の活動について、香川高専HPに詳細かつ迅速に掲載し、「地域イノベーション報」を発行するとともに、広報実績の集約公表に努める。	②(b)地域イノベーションセンターの活動は随時ホームページで案内と実施報告を行うとともに、センター報によって広報と点検評価した。	S	
(c)みらい技術共同教育センターが導入したPM2.5ベータ線吸収法自動測定装置を用いて、本邦に飛来する微小粒子状物質の計測データを分析公表する。	②(c)同センターのHPに、12月期から当該計測データを掲載している。	A	
③ 小・中学校への出前授業や公開講座をより迅速かつ積極的に実施し、宇宙少年団などを通じて理科教育に貢献する新規連携分野に取り組む。	③ 小中学生向けの公開講座や出前講座を実施するとともに、今年度は香川高専シーズ発表会のテーマを宇宙として、小中学生にもわかりやすく開催した。	A	A
④ 地域技術者育成に特化した技術講座や高度技術者養成研修を開催するとともに、自治体の生涯学習センターを利用する場合も含め、公開講座の情報発信・収集に、香川高専HPやICTオープンキャンパスを継続的に活用する。	④ 地域技術者育成に特化した技術講座や高度技術者養成研修を開催するとともに、自治体の生涯学習センターを利用する場合も含め、公開講座の情報発信・収集に、香川高専HPやICTオープンキャンパスを継続的に活用した。企業内技術者などを対象とした学び直しや新技術習得のための高度技術者研修等を計画どおり実施した。この広報・情報発信はホームページとともに香川高専産業技術振興会へのメール配信を行った。香川県国際交流協会からのブラジル人短期研修生指導委託事業を受託し、成果を挙げ知事からの感謝状授与をHP等でPRLした。	S	S
⑤(a)同窓会総会に現教員も積極的に参加して連携を深める。	⑤(a)懇親会や会員による仕事体験談講話を実施、現職教員も参加した。	A	A
(b)ホームカミングデーを開催し、会員相互のネットワーク構築を支援する。	⑤(b)会員相互のネットワーク構築のため、学生祭開催に合わせてホームカミングデーを開催した。	A	
⑥-1(a)協定校とともに国際セミナーや国際シンポジウムを開催し、相互に学生受入と教職員派遣を推進して、交流の活性化を図る。学生交流等に必要な協定の実施細則締結や覚書取交を検討する。	⑥-1(a)協定校である韓国ソウル大学工学部と共催で国際会議を開催した。カーン大学(フランス)と包括的学術交流協定を締結した。協定校であるマラエ科大学(マレーシア)と学生交流に係わる実施細則を締結した。マラエ科大学と共催で土木環境分野の国際セミナーを開催した(学生4名、教員2名を派遣)。協定校である東洋未来大学(韓国)と共催で電子系分野の国際ワークショップを詫間キャンパスで開催した。マラエ科大学と共催で電子系分野の国際シンポジウムを開催した。	A	A
(b)協定校との共同教育・共同研究指導について専門分野ごとに協議を継続し、体制の具現化を図る。また、香川高専国際交流支援基金を有効に運用するための施策を軌道に乗せ、学生の海外派遣を積極的に実施する。	⑥-1(b)高専機構主催のISTS2013、IWIP2013等の参加学生に国際交流支援基金を利用した支援を行った。マラエ科大学と共催で土木環境分野の国際セミナーに学生4名を派遣した。高専機構の夏季・海外インターンシップ・プログラムに学生3名を派遣した。海外語学研修をクライストチャーチ・ポリテク(ニュージーランド)で実施し、学生5名を派遣した。	S	
(c)学生の海外派遣プログラムを立案し、国際協力機構(JASSO)に応募する。	⑥-1(c)学生支援機構(JASSO)の短期研究型派遣プログラムの採択を受け、第一次(マラエ科大)、第二次(正修科科大)のプログラムを実施した。H26年度JASSO短期研究型派遣プログラムに申請した。	S	
⑥-2 留学キャリア志望学生のための支援情報を入手し、集約整理して窓口提供することで、キャンパス学生への周知・啓発に努める。また、国際協力機構(JASSO)の協力を得て国際理解セミナーを開催し、学生の意識向上を図る。	⑥-2 国際協力機構の協力を得て国際理解セミナーを各キャンパスで開催した。海外から講師(カーン大学・マラエ科大学・マレーシア国民大学)を招聘し、英語による専門授業を実施した。	S	S

平成25年度 年度計画	平成25年度 実績報告	自己評価		
<p>⑦(a)編入留学生に対するガイダンスを充実するとともに、香川高専における学生生活と日常生活の支援のための「留学生の手引き」を関係者に配付することで、留学生受け入れ体制の推進を図る。また英文シラバス(簡略版)の内容を見直す。</p> <p>(b)先進校の取り組み事例を調査して、外国人留学生の受入拡大に向けた環境整備の充実ならびに実施体制に関する検討を進め、私費留学生や学術交流協定校からの短期留学生受入れについて協議する機会を設ける。</p> <p>(c)短期留学生の受入拡大に向けて、寄宿舎等の課題を整理し、解決策を検討する。</p>	⑦(a)留学生の編入学ガイダンスにおいて、新しく編集した「留学生の手引き」を使用した。また、同手引きを最新情報に更新できた。英文シラバスでは、科目名統一などにより内容を更新した。	S	A	
	⑦(b)協定校であるマラ工科大学(マレーシア)ならびに東洋未来大学(韓国)との共催行事の際に学生交流推進についてそれぞれ協議した。	A		A
	⑦(c) アジア高専体験プログラム見学の際に寄宿舎等の問題点について共通認識を得た。短期留学生等の寮施設の利用を検討した。	A		
⑧ 見学旅行及びブロック交流会を実施するとともに、全国規模の文化交流事業への参加を支援する。	⑧ 留学生見学旅行及びブロック交流会を実施するとともに、全国規模の文化交流事業への参加を支援した。	S		
4 管理運営に関する事項	4 管理運営に関する事項			
①-1 両キャンパス一体となったスケールメリットを生かし、予算編成において、戦略的かつ計画的な序列配分を行う。	①-1 校長裁量経費の配分にあたり、フルコストのメリットを考えて、計画的に資源配分をした。	A	A	
①-2 コンプライアンス・マニュアル配布の上、コンプライアンスに関するセルフチェックを促し、教職員のコンプライアンス意識の浸透度を調査する。	①-2 チェックシートを各人から提出させて意識啓発に努めた結果、コンプライアンス意識が浸透しつつある。	S		
①-3 内部監査項目の見直しを検討し、発見した課題については、情報を共有し、会計規範やその運用見直し等により速やかに解決する。	①-3 8月に各キャンパス相互内部監査を実施し、不正使用の再発防止策をさらに徹底するために、統一的な事務処理及び内部牽制体制が構築されていることを再度確認した。また、発注担当者、検収担当者を明確に区分し、納品検収体制の充実を図った。	S		
①-4 平成23年度に制度化した「緊急連絡先届」の運用方針を確立し、リスク管理の趣旨目的を徹底する。	①-4 南海地震が到来した場合を想定した指針を設け、連絡体制確認を行った。	A		
③(a)担当者交代伴う事務処理低下を招かないよう、事務引継マニュアルの作成を推進する。	③(a)事務部各課における懸案事項を冊子に総括した。	B		
(b)IT資産管理システムの効率的学内運用により、ソフトウェアライセンスの状況を常時掌握する。	③(b)システム運用の円滑化をはかっており、各部門担当からのソフトウェアライセンス状況報告の都度収集から集約一元管理を検討している。	B		
④ 事務職員や技術職員の能力の向上を図るため、必要な研修会への参加を推進するとともに、成果主義によるインセンティブ付与を検討する。	④ 研修企画の趣旨を解説する等、草の根に向けて広く周知し、課内事情による参加障害がないように、配慮した。技術系は、独自勉強会企画へ積極的に参加している。	A		
⑤ 他機関人事責任者との連絡会を活用し、事務職員及び技術職員についての人事交流計画を策定する。	⑤ ブロック内での会合で綿密に情報交換し、研修出向期間満了復帰後には、本校の中堅クラスとして次世代リーダーを担える若手事務職員を出向させた。	A		
⑥(a)平成25年度に更新する校内LANシステムの情報セキュリティ対策と基盤認証システム移行を推進する。	⑥(a)スケジュールどおり進捗しており、移行を完了した。	S	A	
(b)情報セキュリティ対策のための全学委員会による実施手順策定を計画的に進めるとともに、事故即時処理のためのWeb危機管理チームには権限付与を手当する。	⑥(b)迅速な対処が可能な方策が検討され、策定された要項を25年度から施行した。	A		
5 その他	5 その他			
(a)教育研究やガバナンスにおいて、高度化再編のスケールメリットを活かした事業がなされてきたか、検証に取り組む。	(a)情報学科の整備、ものづくりスペースの整備、若手教員のためのスペースを整備できた。	A	A	
(b)高度化再編完成後の新学科構想に備え、改組計画を具体提案しての大学設置審議会申請スケジュールを策定する過程では、入口と出口における地域の要望の調査分析に取り組むとともに、求められる人材育成に応じた教育の質保証の措置を検討する。	(b)将来計画タスクフォースで検討しており、外部からの意見を踏まえて分析に着手した。	A		

平成25年度 年度計画	平成25年度 実績報告	自己評価	
Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置 (a)一般管理費縮減のため、コピー用紙節減方策や消耗品の一括購入を採用することし、契約に当たっては、原則として一般競争入札等により、企画競争や公募を行う場合においても競争性・透明性の確保を図るため、高専間相互監査を実施して入札及び契約の適正な実施についてチェック及び随意契約の見直しを行う。 (b)校長のリーダーシップの下、校長裁量経費を学内競争的資金としてインセンティブに利用し、戦略的な経費配分を実施する。	Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置 (a)一般管理費縮減のため、コピー用紙節減方策として用紙削減の掲示を行うなど啓蒙を行い意識付けを図った結果、約20万円の経費節減が実施できた。また、契約に当たっては、原則として一般競争入札等により、企画競争や公募を行う場合においても競争性・透明性の確保を図るため、高専間相互監査を実施して入札及び契約の適正な実施についてチェック及び随意契約の見直しを行った。 (b)校長のリーダーシップの下、校長裁量経費を学内競争的資金としてインセンティブに利用し、戦略的な経費配分を実施した。	A	A
Ⅲ 予算(人件費の見積もりを含む。), 収支計画及び資金計画 1 収益の確保, 予算の効率的な執行, 適切な財務内容の実現 政府系大型競争的外部資金等の獲得に積極的に取り組む。	Ⅲ 予算(人件費の見積もりを含む。), 収支計画及び資金計画 1 収益の確保, 予算の効率的な執行, 適切な財務内容の実現 COC獲得のための講演、申請準備を行った。	A	
Ⅶ その他主務省令で定める業務運営に関する事項 1 施設・設備に関する計画 (a)マスタープランを策定し、教育研究の推進や学生の福利厚生の改善のために必要な施設設備の新設、改修、増設等を計画的に進める。 (b)引き続き、節電意識の浸透を図り、環境施設マネジメント委員会で省エネ化の具体的方策を検討する。	Ⅶ その他主務省令で定める業務運営に関する事項 1 施設・設備に関する計画 (a)高松キャンパスでは、福利施設2階ホールを学生食堂に変更改修し、空調設備を増設し、下階保健室へ騒音が響かない様、床に防音措置を実施した。 (b)毎月、電気使用量を教職員にメールで連絡し、その都度省エネの協力を求めた。待機電力削減のため、中間期に空調機の電源を落とした。改修工事時に、省エネ機器を採用、複層ガラスへの変更を行った。	A	A
2 人事に関する計画 (1)方針 教職員の人事交流を進め、多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施又は他機関研修に派遣支援することで資質の向上を図る。	2 人事に関する計画 (1)方針 例年通り、他高専・大学との連携により、将来を担う若手中心に人材育成計画を策定した。	A	A
(2)人員に関する計画 FDやSD等による常勤職員の職務能力向上に努めるとともに、事務組織の効率化を図り、改組構想に応じた教職員配置をシミュレートする。	(2)人員に関する計画 四国地区大学教職員能力開発ネットワークを活用に取り組んだ。タスクフォースとの連携により、学科再編をシミュレートし、エフォートの検討に取り組んだ。	A	A